



知るふふれは「高粱を知る」と「シルブプレ」(フランス語で「よろしければ」)をかけた言葉です

海外では、多くの人が普通の観光旅行に飽き足らず、地元の人とのコミュニケーションを求めています。そして高粱のゲストハウスにも、高粱のこ

市内に「ゲストハウス」があるのをご存じですか。今回は、吹屋「イレブンヴィレッジ」、川面町「柔」、和町「ココドリロ」、三軒の各オーナーに話を伺ってきました。ゲストハウスとは、風呂や台所などを共用にして宿泊者同士やオーナーと一緒に過ごす、交流が生まれやすい宿泊形式。提供されるのはベッドだけでなく、地域の魅力を生かした暮らしであったり、有機的な食文化であったり、スポーツであったりと、さまざまなライフスタイルの体験です。

とを全く知らない外国人が次々とやってきているのです。インターネットで安く簡単に予約できるといふ理由で高粱に宿泊する人たちが、交流を楽しみ、市内の名所などに案内され、このまちを好きになって帰っていく。高粱に新しい旅の形をもたらした3人のオーナーはそれぞれ外国語大学の卒業生、海外青年協力隊経験者、母がコスタリカ人で、ともに海外文化経験があり、そして2〜6年前に都会から高粱へ移住し、この地ならではの豊かな自然や人々の連帯感などの魅力を感じ、世界へ発信しています。皆さんも宿泊してみませんか？ 見知らぬ人と交流をする覚悟はあるかな？



「吹屋ゲストハウス・イレブンヴィレッジ」の田川寿一さんは、イベント「やまのうえのマルシェ」でも活躍中



ながの長野エドウィン・タケルさんが運営する「高粱ゲストハウス・ココドリロ」にはカフェも併設



「ゲストハウス柔」の金盛友彦さんは世界中を旅してきた柔道家



麻疹の流行

小児科

麻疹は、高熱や全身の発疹などの特徴をもつ感染力の非常に強い急性ウイルス感染症で、肺炎や脳炎などの重篤合併症を併発することがあります。

日本では、1978年10月から麻疹ワクチンの定期接種を開始しており、2006年からは1歳から就学前までに2回の接種が義務付けられています。

ワクチン接種の効果もあり、2009年以降麻疹の患者数は激減していましたが、2018年3月に沖縄県で麻疹の患者が発生し、東海・関東地方にも感染が広がりました。これらは海外からの旅行者によるもので、東南アジア・インド・ヨーロッパなどからのウイルス輸入感染が問題となっています。麻疹を予防するにはワクチン接種が効果的です。28歳〜41歳の人と28歳以下でワクチンを2回接種していない人は、この機会にワクチンの接種をしておきましょう。

①1977年4月1日以前に生まれた人

②1977年4月2日〜1990年4月1日に生まれた人

③1990年4月2日以降に生まれた人

ワクチンを1回接種している。免疫が低下している可能性が高く、最も感染の危険性が高い年代。

1回もワクチンを接種していない可能性が高い。ただし、自然に感染し免疫を獲得している場合が多い。



各種検診が始まっています

検診の種類	対象
※1 特定健康診査	40～74歳 (国民健康保険加入者)
※2 健康診査	30～39歳 75歳以上
結核・肺がん検診	40歳以上
喀痰検査	
胃がん検診	20～65歳(5歳刻み)
胃がんリスク検診	
大腸がん検診	40歳以上
前立腺がん検診	40歳以上男性
肝炎ウイルス検査	40歳以上 (受けたことがない人)
乳がん検診	40歳以上女性
子宮頸がん検診	20歳以上女性
骨密度検査	30～70歳 (5歳刻みの女性)
歯周病疾患検診	40～70歳(10歳刻み)

家族のためにも年に1度、検診を受けましょう。



岡美希保健師 (健康づくり課)

市が行うがん検診、特定健康診査などの日程、場所などについては「平成30年度成人検診ガイドブック」をご覧ください。ガイドブックは健康づくり課、各地域局、各地域市民センターにも置いています。

注意事項

- ①30代の健康診査・肝炎ウイルス検査・骨密度検査は集団検診のみ。胃がんリスク検診・歯周病検診は医療機関検診のみ実施しています。
- ②胃がん検診の集団健診では胃部(間接)X線撮影のみ。医療機関検診では胃部(直接)X線撮影または医師の判断により内視鏡検査になる可能性があります。
- ③国民健康保険加入者で40歳以上の人には「特定健康診査受診券」、75歳以上の人には「健康診査受診券」を送付しています。

※1メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)に着目した健診
※2生活習慣病の予防や病気の重症化を防ぐことを目的とした健診

協力隊がゆく²⁴

備中漆の再興、特産品の6次化をテーマに活動中の森永です。着任して一年が経ちました。あつという間違ったこの一年、振り返ればとても濃密な時間を過ごしてきたように思います。



森永 祐史隊員

初めはわからないことばかりでした。私が暮らす備中町は山が深く、道に迷って入り込んだ山間に集落を見つけて驚いたこともありました。地域の方には優しく声をかけていただき感謝しています。自分のモチベーションアップにつながると思います。中でも印象に残っているのは平川の運動会と渡り拍子です。お祭りに参加するみんなが知り合いで声をかけ合う様子が、都会から来た私にとってはとても心地よく、また、新鮮に映りました。風土を知り、伝統を知り、芸能を知り、そしてそれらと深く関わる備中漆に携わらせていただきました。



森永隊員による漆製品

また、採取した備中漆を用いた漆器を製作しています。やればやるほど奥が深い漆塗りですが、一つ一つ学んでいき、備中漆を知ってもらおうきっかけとなるようなものを製作、販売していきたいと思っています。

漆について勉強し、研修へ通い、採取した漆のかぶれに悩まされることもありませんでした。そんな中で昨年採取した漆の量は950gでした。



漆を採取する森永隊員